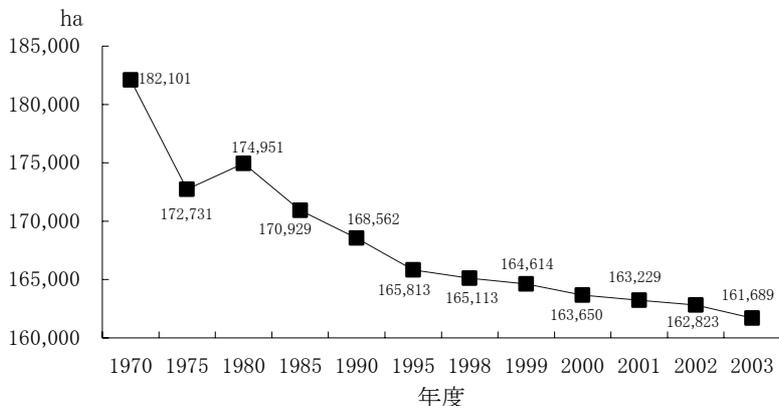


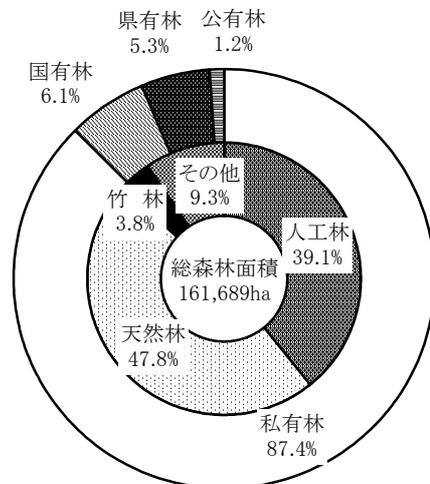
# 1. 森林資源

総森林面積の推移



図表 1

森林現況の面積割合



図表 2

## 《森林資源》

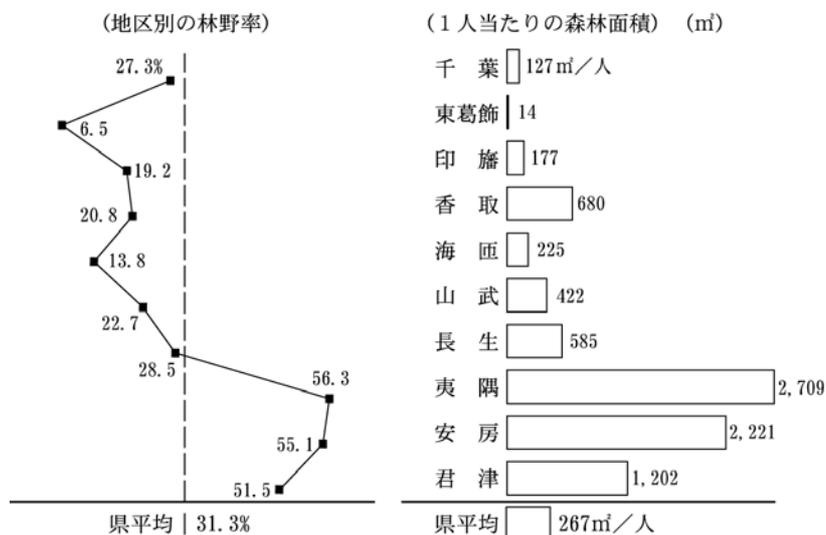
### — 多面的機能の発揮が期待される森林 —

本県の森林は、水源のかん養等の多面的機能の発揮を通じて県民生活に大きな役割を果たしている。面積は161,689haで、蓄積は23,356千 $m^3$ である。

森林面積は、年々減少しており、過去5年間では3,424ha (2.1%) 減少した (図表1)。所有形態別の面積は、私有林が最も多く141,386ha (87.4%)、県有林8,523ha (5.3%)、市町村有林・財産区有林1,846ha (1.2%)、国有林9,934ha (6.1%) である (図表2)。この構成割合にはほとんど変化はない。森林面積は減少しているものの、蓄積はまだ成長期にある林分も多いため、この5年間で4,806千 $m^3$  (25.9%) 増加している。

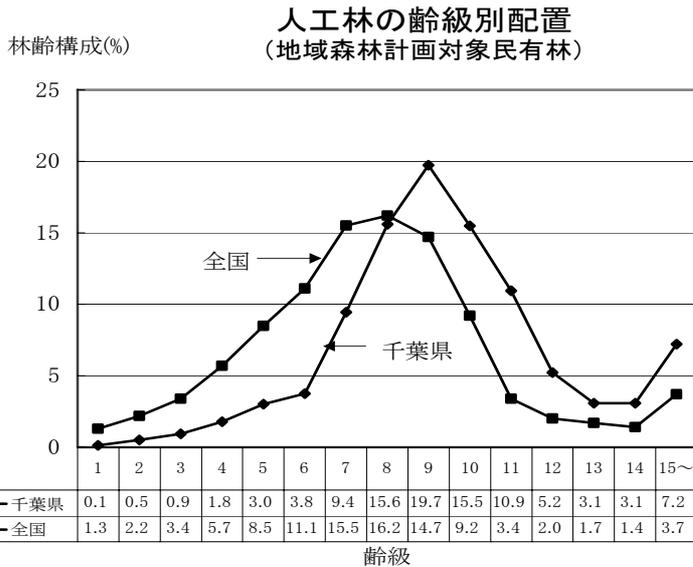
林野率は、31.3%で、全国平均の半分以下で第45位 (2000年世界農林業センサス) である。地区別の林野率は、北総地区が低く、特に人口が集中している東葛飾地区は6.5%と極端に低い。一方、夷隅、安房、君津地区は県平均を大きく上回り、いずれも50%を超えている (図表3)。人口 (平成16年6月1日調査) 1人当たりの森林面積は267 $m^2$ で、地区別には、夷隅地区が最も多く、2,709 $m^2$ 、次いで安房地区の2,221 $m^2$ となっており、最も少ないのは東葛飾地区の14 $m^2$ である (図表4)。

地区別森林面積状況

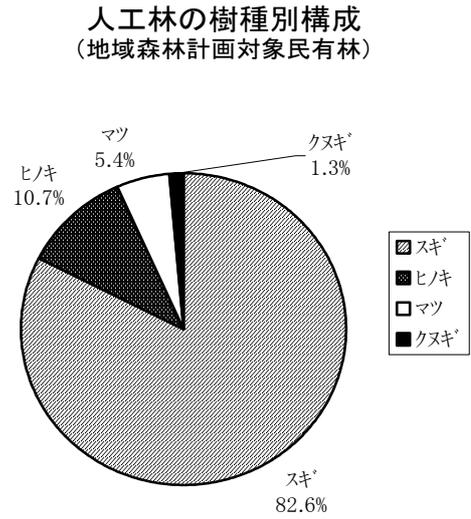


図表 3

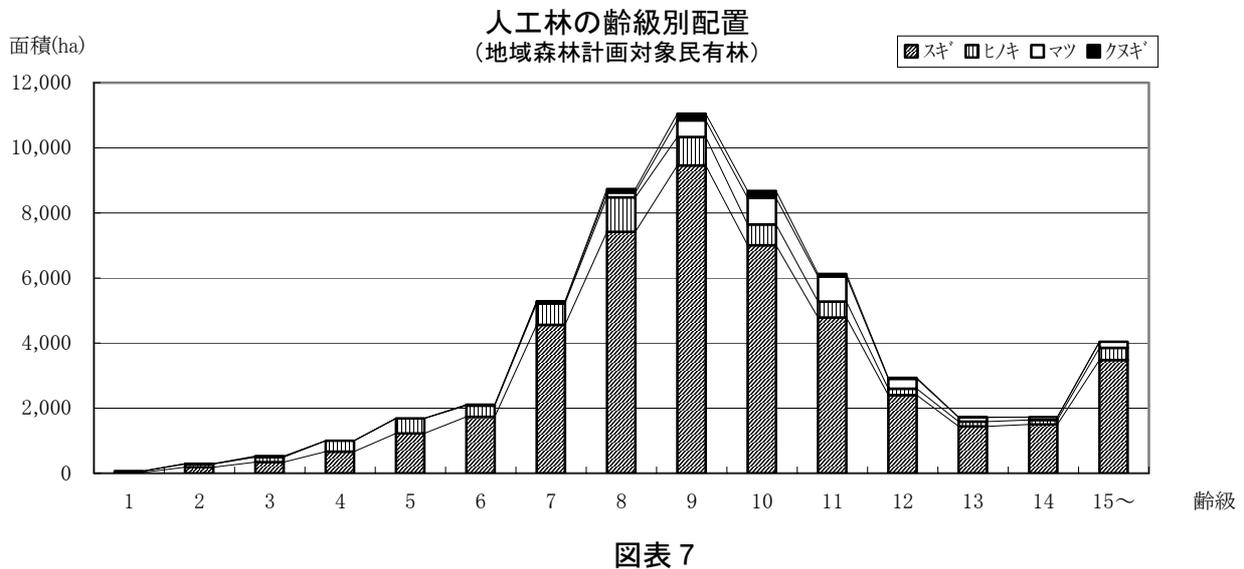
図表 4



図表 5



図表 6



図表 7

森林資源を適正に維持・管理することを目的に樹立される地域森林計画の対象となる民有林は、面積148,747ha、蓄積21,636千 $m^3$ で、全森林に占める割合は、面積92.0%、蓄積92.6%である。林種別面積の内訳は、人工林55,979ha、天然林72,167ha、竹林・その他20,601haで、人工林率は全国平均をやや上回る37.6%である。

人工林の林齢構成をみると、20年生以下が3.4%、21~40年生が34.8%、41年生以上が61.8%で、20年生以下は、全国平均12.6%の3割程度であり、比較的成熟した森林であるといえる（図表5）。

人工林のうち保育・間伐を必要とする35年生以下のものは19.6%を占めるが、全国平均と比べると6割程度低い。樹種の構成は、スギの占める割合が最も高く82.6%で、以下ヒノキ、マツ、クヌギの順である（図表6）。森林の単位面積当たりの平均蓄積は145 $m^3$ /haで、全国平均171 $m^3$ /ha（2000年世界農林業センサス）の85%である。

森林の有する木材生産等の経済的機能の発揮はもとより、水源かん養、山地災害の防止、自然環境の保全形成等公益的機能への県民の期待はますます高まっており、この要請に応えるため、森林の保全と適正な管理が必要である。